

〔会員からの話題〕

## うばらき（茨城）×平将門×平景清×豚熱 に思う

北 島 克 好

（日本 SPF 豚協会）

All about SWINE 64, 55-57

「西国の梅華かおる博多の津から東国どこまでも平らで直道（ひたみち）」が、語源の常陸国の国府（現石岡）に居を移して47年、第二の故郷にまつわる伝説的英雄が時を駆けて今につながる紐解きについてご紹介いたします。

## うばらき（茨城）の語源

茨城といえは魅力度ランキングで47番目が定位置として最近よく話題になりますが、地元の全区で名の知れた英雄は水戸黄門様と平将門が一無二で、残念ながら未だに総理大臣を輩出してない県としてもよく話題になります。土地が豊かで誰に頼らずとも飯が食べていける土地柄だからでしょうか。

茨城の語源は常陸風土記によれば第10代崇神天皇の時代（3～4世紀頃）が大和朝廷に弓をひく東国の豪族を討伐するため黒坂命が大和朝廷軍を率いて常陸国に遠征し、岩窟を掘った住居の穴の入口に茨（うばら）をもって塞いで討ち取ったことが地の茨城（茨で城を築いた、または茨でふさいだ）の名前の発祥とされています。この伝説の地が現石岡市南東部のばらきだい台団地のあたりで、バス停に「茨木」の名前と「茨城の地名発祥地」の看板が立っています。その後、7世紀頃

には中央集権国家として律令体制を固めてきた頃で、蝦夷の住む東北地方の陸奥国はまだ制圧されていなかったことからその境を接する常陸国の国府（現石岡市）に大和政権の重要な戦略拠点として、大化の改新（693年）のころ役所の国衙（こくが）を中心としたリトル平城京が建設されました。石岡市のキャッチコピー「歴史の里1300年」のルーツです<sup>(1)</sup>。



茨木のバス停



地名由来の看板

## ×平将門

その350年後、常陸国の国府を焼き払ったのが茨城レジェンド No.2 の平将門（903-940年）です。八幡神と菅原道真の霊が宿ったと宣言し、自

称「新皇」に即位した茨城のナポレオンでしょう。その経緯を短く辿ると、父の平良将は桓武天皇の葛原親王の曾孫にあたる高望王（上総介 889年）の三男で下総国佐倉（現千葉県佐倉市）が領地。平安時代中期ごろには中央政府の律令制が崩れ始め、西日本、京、坂東、東北辺境に広大な私有地を所有する群賊が横行するも、中央政府は神頼みのみに終始。936年3月武蔵介源経基の「坂東に謀反の兆し有り」との朝廷への密告で、939年2月武蔵守の興世王と武蔵の国足立群司武蔵武司馬と紛争を起こして平将門が調停。豪族で武蔵守の興世王は新任国守の百済王貞連と対立し平将門を頼る。将門の食客で当代の悪徳である興世王は「一国を討つも数か国を討つもその責は変わらない」と平将門に進言。また、国の乱人（受領を暗殺）で霞ヶ浦の土豪藤原玄明は租税を滞納し徴税使への乱暴により受領常陸介藤原維幾の追討を受けて、玄明も平将門へ逃げ込む。悪党の2人を抱えた平将門は、常陸国府からの2人の引き渡しを拒否し、939年11月常陸国の国府を襲撃して受領常陸介藤原維幾を拉致監禁し、リトル平城京の三百余りの家を焼亡、略奪。同年12月上野国府で新皇に就任するが、翌年下総国の合戦で敗死したのが有名な将門の乱の顛末です<sup>(2)</sup>。焼き払われた後の常陸国の国府は、朝廷から守護を任せられた地元豪族が朝廷の役人を嫌い町はずれの茨木（ばらき）に移したのが現在のバス停付近です。

#### ×平景清

将門の乱から200年後、将門と同じく高望王の子孫で、現石岡市貝地にある府中六井に一つ室ヶ井の水で産湯をつかったとの伝説がある。平景清は俗に平姓、通称を上総七郎、「悪の七郎」のサ

ブネームで呼ばれ、源平合戦（1180～1185）の屋島合戦で源氏の美尾谷十郎国俊と鍛（しころ）引きの力くらべで鍛を引きちぎったという逸話があります。景清は謎多く、全国各地に伝説が30余はあるようです。石岡には「産湯」以外にさらにもう一つ伝承があります。景清が源平合戦に敗れ、源頼朝の命で常陸国の守護についた八田知家に預けられ、150年前に将門に焼き払われた国府にて食を断ち1196年に命を終えました<sup>(3)</sup>。その清廉潔白な靈魂を称えて石岡の江戸時代より愛額社として祀られ、隣に供養塔が建立されています。



愛額社



供養塔

#### ×豚熱

ここまでの話と直接結びつきはありませんが、関東で唯一、千葉県には豚熱の発生はなく、イノシシの陽性も出ていないことは関心事の一つです。勿論、千葉県の養豚生産者の防疫意識が高く関係機関とも連携されて徹底した対策がとられていることが第一です。今回、歴史書を読み解くなかで、大和朝廷の出先でつくば山麓に置かれた新治郡の管轄域が千葉の佐倉市までに及び上総と下

総は一つに繋がった広大な地域であったことを知りました。しかし、江戸時代に利根川の治水工事で現在の千葉県と茨城県が分断され、両護岸の川幅が1 kmにも及ぶとされる物理的な障壁になっていることが豚熱の防疫に一役買っているかなと改めて思った次第です。イノシシが川をわたる映像や話もありますが、いずれこの話も伝説となるのでしょうか。

#### 参考資料

- 1) 石岡市史 石岡市長鬼沢賢造, 石岡市史編纂委員会 1979
- 2) 平将門 北山茂夫 朝日選書 朝日新聞社 1993
- 3) 茨城歴史人物辞典 茨城新聞社 2017